

# 03

## Turning 旋盤



### ものづくりの立役者、工作機械の代表選手！

ものづくりを支える代表的な工作機械に「旋盤」と「フライス盤」があります。製品には、丸い形のものや角のある形のもの組み合わせられたものが数多くあります。例えば、シャフトやネジなどの丸い部品は旋盤によって加工され、スマホの金属フレームやプラスチック製品の金型などの四角形の部品はフライス盤を使って作られています。旋盤を使ったものづくりは「段取り(準備)」から始まり、どのような順番でどのように加工するかを考えて、準備から完成までを何度もシミュレーションし、最高の製品を作り上げていくものです。

手作業による  
旋盤加工



#### 前回大会金メダリストからメッセージ！

[所属：熊本県立技術短期大学校]

赤池 優太さん

本番では、いつも通りの作業ができれば結果もついてくると思いますので、勝負をする中でも、楽しみながら競技に臨んでください！

### 最大の見せ場は 手際よく作業すること！

選手は「炭素鋼」という鉄と炭素が合わさった素材を使って加工を行います。この硬い材料を削る工具が「バイト」と呼ばれるもので、中にはダイヤモンドと同じくらいの硬さを持つものもあります。競技課題には、「外削り」「内削り」「テーパ削り(円すい状に加工)」「ねじ切り」「溝削り」「ローレット加工(表面をギザギザにする)」など、さまざまな技術が試されます。いかに手際よく、そして高精度に加工できるかが競技のポイント。スピードと正確さが求められる、まさに職人技の世界です。



古賀 俊彦 主査  
職業能力開発総合大学校



前回大会  
金メダリスト  
インタビュー

